

平成27年度 施策評価表

作成年月日：平成28年8月29日	課・グループ名	生涯学習課学校教育グループ
------------------	---------	---------------

施策名	①-a 農業を活かした学習機会の充実（農業体験等の実践）	3-2-①-a
------------	------------------------------	---------

1. 施策の現状分析及び展開方向

政策・施策の体系	大項目	中項目	小項目
	3. 地域に根ざした教育と文化の高いまちづくり	(2) 農村環境を活かした学校教育の推進	①-a 農業を活かした学習機会の充実（農業体験等の実践）
①施策のねらいと展開方向	●総合的な学習において、受入農家の協力を得ながら田植え体験学習等を行い、農業・食育に対する理解を深めます。 ●学校農園等を通じて、日常的に農作物に触れる機会の確保に努めます。		
②施策の現状と課題	現 状	課 題	
	●小学校の総合的な学習では、農業体験・実践学習等を学習過程に組み入れ、本町の基幹産業である農業と食育に対する理解教育に努めています。 ●中学校1、2年生の総合的な学習では、キャリア教育の一つとして、農業を通して働くとの体験に取り組んでいます。	●総合的な学習課程は国際理解、情報、環境、福祉、健康など多様なものがあり、年間を通した農業体験等の時間確保に制限があります。	

2. まちづくりの成果指標の設定、達成状況

① 成果指標	設定の意図	まちづくりの成果指標名	数値化	
	・本町の基幹産業である農業と食育に対する理解教育を深めるため、総合的な学習において農業体験を実施した日数を成果指標として設定している。	成果指標（総合計画・施策評価）	○	可能
		農業体験日数（総合的な学習）	□	不可能
		代替指標 ※成果指標がない場合	□	未計測
			□	可能
			□	不可能

※施策目的(施策の意図)の達成状況を把握するための指標を記載しています。

② 指標データ	単位	過年度実績			評価年度	目標年度	達成率増減の理由
		H24	H25	H26	H27	H28	
目 標	日	34	34	34	34	34	
実 績	日	33	33	33	33		
達成率	%	97.1	97.1	97.1	97.1		

評価視点	評価結果		理由、課題・問題点
③ 施策の達成状況	A 計画目標に向けて順調に推移 (目標達成は十分に可能である)	施策の達成度	・多様な課程を行っている中で、田植・稲刈学習、学校農園・バケツ稲での栽培、野菜の収穫・選果等の様々な活動を通じて、児童生徒が農業と食育に対する理解を深めることが出来ている。
	B 計画目標に向けて概ね順調に推移 (目標達成は可能である)		
	C 計画目標に向けての進捗はやや遅れている (目標達成が遅れる可能性がある)	A	
	D 計画目標に向けての進捗は遅れている (目標達成は難しい)		

3. 施策を構成する事務事業の評価

【種類】事務事業の種類	【必要性】事務事業の必要性	【妥当性】町の関与の妥当性
(1) 自主事業(自主)	(1) 町が保障する町民生活の最低水準に関わるもの	(1) 町が実施主体となり、企業等が補完的な役割を行う事業
(2) 施設管理事業(施管)	(2) (1)を超えるサービスで町民ニーズが大きいと考えられるもの	(2) 実施主体は企業や町民団体等が適当であり、市が補完的な役割を担う事業
(3) 経常的事務(経常)	(3) (1)を超えるサービスで町民ニーズが小さいと考えられるもの	(3) 企業や町民団体等による実施が適当な事業
(4) ハード事業(ハード)		

①事務事業評価結果

事業番号	事務事業名	種類	所管課名	成果指標	評価年度(H27)		事務事業の内容	必要性	妥当性	事務事業評価結果(方向性)	事業費(千円)		施策への貢献度 <高い> <普通> <低い>	
					目標	実績					単位	H27実績		H28予算
					実績									
1	総合的な学習事業	(1)	生涯学習課	代替指標)対象児童数 (上段:小学校、下段:中学校)	215	190	人	II	I	1 現状のまま継続	384	高い		
				(本来の指標)農業体験日数	213	190					406			
2														
3														

年度別施策全体の事業費合計(千円)	
H27事業費	384
H28予算	406

②H28に実施した新規事務事業

	実施計画	実施主体	事務事業名	事務事業の内容	H28予算(千円)
1					
2					
3					

評価視点	評価結果		理由・問題点
③事務事業の妥当性 (手段は妥当か)	A 効果的な事業構成である。 (現状のまま継続する)	事業構成の妥当性	今後も、農業と食育に対する理解をさらに深めるための活動を推進し、総合的な学習に対する各児童生徒の取組みを充実したものにしていく。
	B 概ね効果的な構成である。 (一部見直し等の余地がある)		
	C あまり効果的な事業構成はない。 (見直し等の余地が大きい)	A	
	D 事業構成に問題がある。 (抜本的な見直し等が必要である)		

4. 今後の方向性 ※外部評価(行政評価委員会)

①総合評価 (今後の展開、事業の見直し等) 委員会評価	特に課題とすべき指摘事項はない。		事業の方向性 優先度 A~D (ランク)	事業番号					平成29年度以降の予算の方向性	
				A						
				B	1					拡大
				C						○ 維持
				D						縮小